

戦後拉致されたのは国民だけではない 国家復興の鍵を握る「祖国の歴史も」

先日、懇意にさせていただいている先生の新病院竣工式があり、その竣工記念に「国家の再興」という題で一時間しゃべれと言われた。

病院の竣工式に来られる方は医療関係者が多いので、医療行政や福祉の話ではない「国家の再興」という話で勤まるのかなとも思ったが、国民は国家の一員として生きており、国家の命運と国民の気分そして健康とは不可分に結びついているので、思っていることを率直に言わしていただいた。

そして、この時の話は、私の考えの基本線を踏まえたものなので、以下に、その概略を記しておきたい。



ミサイルの脅威から我が国を護る「強い日本」を建設しようと語る西村真悟代議士

1、まず、日本に於ける国家の再興とは「復古」というかたちで為される。明治維新が「復古」というかたちで実施されたことを振り返るまでもない。日本史は太古から連続しており断絶がないからである。

ここが易姓革命の国、二百年前や六十年前に建国を宣言した国、また、国王の首を切ってしまった国と日本が異なるところである。

2、では、現在の日本の再興と言うとき、何処に復古すればいいのであろうか。

結論から言うと、明治の御代に帰るべきである。つまり**復古の目標は明治である**。

明治という時代は、国民は今よりももっと貧しく、我が国を取り巻く内憂外患はもっと厳しい時代だった。しかも、その外患への対処一つを誤れば、国家の廃絶に直結する時代だった。

我々は、この厳しくも明るい明治を生き抜き、今の日本を我々に確保してくれた明治の日本人を知るべきである。

この時代を生きた徳富蘇峰翁は、「**国家興隆すれば、理想を以て生活とし、国家衰頹すれば、生活を以て理想とす**」と書いている(林平馬著「大国民読本」序文、昭和二年、より)。

まことに、明治とは国家の興隆期であり「理想を以て生活とした」時代であった。よって、今の「生活第一」を政治標語として掲げる政党は、国家衰頹を願っている。

3、明治に帰る為には、明治の日本国民を知らねばならない。

明治の日本人を知る為のすばらしいエピソードが、[イスラエル](#)建国の物語のなかにある。

日本の運命を決した戦争は日露戦争である(明治三十七・八年戦役)。その日露戦争の帰趨を決した激戦は旅順要塞攻防戦である(明治三十七年八月～八年一月一日)。

旅順要塞への最後の第三次総攻撃は、明治三十七年十一月二十六日に開始されたが、この日深夜、三千名の白禪隊は、銃剣と日本刀で近代要塞に突撃して数時間後に消滅した。

司馬遼太郎氏は、これを第三軍司令官つまり乃木希典將軍の無能による兵の屠殺と書くのであるが、[ロシア](#)側は「この白禪隊の不屈の攻撃に直面したとき、我らは屈服した」と書いている。即ち、公式の旅順の降伏は明治三十八年一月一日であるが、旅順に於けるロシアの日本への真の屈服は白禪隊の突撃に直面した三十七年十一月二十六日だったと。

この旅順で日本軍に降伏した三万一千のロシア兵のなかに、日本軍の砲撃で左腕を吹き飛ばされても勇敢に戦ったトランベルドールというユダヤ人がいた。そして彼らロシア兵捕虜は、私の郷里である堺の浜寺に設けられた浜寺[ロシア](#)兵捕虜収容所に収容された。

「祖国のために死ぬことほど名誉なことはない」

トランベルドールは、何故この小さな日本が、世界最大の陸軍国[ロシア](#)に勝利したのか知りたいと思った。そして、一人の日本兵の語った言葉を生涯忘れなかった。

それは、「祖国のために死ぬことほど名誉なことはない」という言葉だった。

日露講和後に[ロシア](#)に戻されたトランベルドールには、帰るべき祖国がなかった。そして彼は、[パレスチナ](#)にユダヤ人の命に代えて護るべき祖国を建設する戦いを始める。

そして十年後にパレスチナの地でアラブ側の銃弾に当たって斃れたトランベルドールは、駆け寄った戦友に、「俺にかまうな。祖国の為に死ぬことほど名誉なことはない」と言って事切れた。

このトランベルドールは、片腕の將軍といわれ[イスラエル](#)建国の英雄として知らないユダヤ人は一人もいない。そして彼の戦死した場所には、無名の日本兵が彼に語った「祖国の為に死ぬことほど名誉なことはない」という言葉が石に刻まれている。



日露戦争で中村少将以下三千名の白樺隊の戦いを描いたイラスト(いのち燃ゆ 乃木大将の生涯 P95から)

4、白樺をして要塞に突撃した日本兵やトランベルドールにイスラエル建国の情熱をわき上がらせた日本兵は、皆、**明治という時代が生み出した無名の日本国民である。**

従って、トランベルドールがユダヤ人の祖国建設のために小さな明治の日本の力の謎を解明しようとしたように、現在の我々も、祖国再興の為に明治が生んだ日本国民の心を探知しなければならない。

この探求がイスラエル建国に繋がったように、日本の再興に繋がる。

しかし、この歴史の探究を妨げるものがある。それが村山談話に象徴される自虐史観である。これが、日本人から歴史観を奪っている。従って、我が国家再興への第一歩は、明治の日本人の心を我が心とするための歴史の回復である。

戦後拉致されたのは国民だけではない。

国家復興の鍵を握る祖国の歴史も拉致されているのである。

この国民と歴史の救出こそが「国家の再興」であり、今の国政の最大の責務である。

5、現在、イスラエルは敵対的なアラブ諸国に囲まれて存在している。しかし、イスラエルを攻略できると考えているアラブ諸国はなく、ユダヤ人が拉致されたこともない。

何故なら、イスラエルという国家は、一人のユダヤ人が拉致されることも許さず、犯人を地の果てまで追いかけてくることを周辺諸国は知っているからである。

イスラエルは、たとえ一人のユダヤ人の拉致を放置することは、再び全ユダヤ人が強制収容所に送られる道が開かれることになると考えている。従って、イスラエルは断固として国家の至上の任務としてイスラエル国民を護る。

二十世紀は、金銭のことしか考えない抜け目のない商人にしか過ぎなかったユダヤ人を勇敢な戦士にして、勇敢な戦士であった日本人を金儲けのことしか考えない卑しい商人にした、と世界で言われているらしい。

そう言われても仕方がない。近隣諸国に国民が数百人拉致され、核ミサイルで狙われているのに、「生活第一」で国政選挙をしようとしているのだから。

ビルマの二の舞でしょうか？

2009/04/13 22:41



Commented by **bunshiro** さん

花うさぎ様

こんばんは。

2009/04/14 07:27

日本が行った過去の戦争に対して思うのは「日本国に対する思い」が現代日本人とは比較にならないほど

大きかったのではないのでしょうか。もしかしたら”大切な家族を守りたい”だったかもしれません。

そうでなければ無謀な突撃などは出来ないと思います。

ただこれは悲しい事でもあったとも思います。

「祖国のために死ぬことほど名誉なことはない」

この様な思いを抱かせる国を作っていくべきですね。

阿比留さんの所での例の問題は私もちょっと余計な書き込みをしてしまったなあ〜と反省しています。



Commented by **花うさぎ** さん

To しやちょうさん おはようございます。

>日露戦争の日本の勝利は、世界史の重要なポイントですよ。

白人絶対の世界にくさびを打ちこんだ「驚天動地」の大事件でした。

>植民地の人々を大いに勇気付ける事が出来たと日本人が誇って良い事です。

まさにその通り。

>学校では、教えてくれませんが。

これが一番問題です。

>タイはどうなるでしょう、心配です。

>ビルマの二の舞でしょうか？

困ったものですね。どちらも基本的には親日国なんですが。



Commented by **花うさぎ** さん

To bunshiroさん おはようございます。

2009/04/14 07:38

>もしかしたら”大切な家族を守りたい”だったかもしれません。

幕末から明治維新、そして富国強兵を急いだ大日本帝国は、白人社会の支配を受けるか、独立国としてのポジションを守るか、必死の思いで政府も国民も戦い抜いたのだと思います。

国を守る、家族を守るという意識が現代とは比較にならぬほど高かったと思います。

>この様な思いを抱かせる国を作っていくべきですね。

その通りです。そういう日本を作るのは他ならぬ我々国民です。

>余計な書き込みをしてしまったなあ〜と反省しています。

bunshiroさんのことを云ったわけではありませんよ。ネットでは著名なブログなので有名税みたにな事かも知れませんが。



Commented by **tropicasso** さん

花うさぎさん、こんにちは。

2009/04/14 13:54

少なからず教養のある日本人なら日露戦争の意義は人口に膾炙するところでありませ

が、こういう真理を恰も異論の様に弁論しなくてはならないところが今日 日本の異常性を物語っていますね。でも麻生総理の支持率が30%(半分反対派なら60%達成です、もう一息で合格!)復帰ということですから、一般大衆もバランス感覚ありますね。

2009/04/14 19:29

それにしても西村議員の頑張りには頭が下がります。
それと「日本の歴史も拉致されている」という氏の表現は秀逸です。

話題は一寸替わって「世界に愛された日本」(西村幸祐編集?)という雑誌の中に、沢山の美談があるそうですね。こういう雑誌を歴史教育の副読本に絶対にすべきです。帰国したら買い求めようと思いますが、品切れだそうです。



Commented by **花うさぎ** さん

To tropicassoさん こんにちは。

>一般大衆もバランス感覚ありますね。

まあ、戦後、日本が社会主義国にならなかつただけでも良しとしなければなりません、一方で精神的にはほとんど取り返しのつかないレベルにまで負けてます。

もし、日本がここで国防のために核武装、徴兵制を国民に訴えて支持が得られるかという、甚だ疑問です。

>それと「日本の歴史も拉致されている」という氏の表現は秀逸です。

私も上手い表現だな〜と感心しました(^ ^)。

>帰国したら買い求めようと思いますが、品切れだそうです。

私もそこそこ大きな書店でやっと探して買ったのです。オークラ出版(03-3792-2411)に直接問い合わせた方が良いかも知れません。



Commented by **tropicasso** さん

花うさぎさん、おはようございます。

2009/04/15 11:16

オークラ出版の連絡先ありがとうございます。
早速、問い合わせしてみます。

ありがとうございました。

PS) この雑誌のご紹介はご貴殿のエントリーから得た情報でした。失礼致しました。今後も良い書籍等の情報をお願い致します。